

コンタクト・インプロヴィゼーションの身体性とその身体イメージ

立木燐子

70年代にアメリカのポスト・モダンダンスの実験的な流れの中から生まれた即興のダンス形式、コンタクト・インプロヴィゼーションは、力学の原理に従うその自在な動きが注目され、80年代以降コンテンポラリーダンスの振付にも大きな影響を与えた。ここではその身体性の特徴を分析し、そのイメージ喚起の可能性について考察する。

(1) 成立と歴史的背景

コンタクト・インプロヴィゼーションは、スティヴ・パクストンを中心とした即興の実験的ダンス・グループ、グラント・ユニオン(1970-1976)の活動を基盤に発展したダンス形式である。ダンスのみならずスポーツ(特に体操)、合気道、ボディ・セラピー、ロック・ダンスや前衛演劇(特にリヴィング・シアター)など60年代以降アメリカで探求された「身体」に対する新しい考え方を広く吸収している。体操を学び、後にマース・カニングハム舞踊団で活躍したパクストンは、身体のリアリティの動きそのものを重視したカニングハムの思想に共鳴、独自の自由で平等な身体のあるあり方を模索した。禅の哲学を踏まえたジョン・ケージの偶然性の理論に触発され、動き・身体の使用方には合気道の影響も大きい。

(2) ダンス形式としての特徴

コンタクト・インプロヴィゼーションという言葉は現在では二つの意味を持つ。ひとつは成立以来の意味で、簡潔に言えば、人と人、人と物とのコンタクトをきっかけとして力学の法則に従い発展させる即興のダンスである。互いの接触をきっかけに力学の原理に基づいて動く身体性が特徴的で、多くの舞踊家がテクニクとしてこの動きを採り入れており、その場合この言葉は技法を指す。このダンスではダンサー間の言語によらない「交感」が重要で、接触から生まれる重さや力、気の交流をてがかりに成立する肉体的かつ精神的対話としてのダンスとも考えられる。社会的側面では、70~80年代にアメリカで展開された平等主義的理念に基づく芸術社会運動・美的実践。

(3) 身体性の特徴とその身体イメージの可能性(=以下は、喚起可能な概念や意味例を示す)

- a) 動きの流れにそい即興で踊り、自然にダンスを生まれさせる。万物の事象の受容という禅の思想の影響が見られる。=自然, 自由, 柔軟性
- b) 内的な感覚に集中し、意識は観客に向かわな

い。(ダンスと類似) =個性, 自由, 放縦

c) 相手の力やテコの原理を応用し一人ではできない独特のジャンプやフォールを可能とする。最小限の力でリフトし、相手に軽く触れるだけで動きを導く。弧を描き三次元の方向性をもつ動き一球形の空間把握。空間における方向感覚の消失。

(合気道の影響) =自由, 力感, 柔軟性, 野性

d) 交感する身体/共振する身体

身体と身体のコミュニケーション・対話。相手の動き, 存在に対して感覚的に開き, 鋭い感度のリセプターとなる。相手を操らずとも自然なエネルギーの流れで踊り, 力学的には二つの身体は, 一つの運動体として第三の動きの道にそって動く。

(重心は二人の間で移動) =寛容, 調和, 協力

e) 誰にでも踊れる。巧い, 下手の区別なく, その人のレベルで踊れる。身体の大きさや違い, 技術の差, 男女の違い, 年令の違い, 障害の有無などの〈差異・境界〉を越える〈ジェンダー・フリー〉の身体・ダンス。コンタクト・インプロヴィゼーションでは, ロール, フォール, バランスなど男女とも共通の語彙で踊り, 服装も男女の区別がない。=自由, 平等, 友愛, 慈しみ

f) リーン(寄り掛かり), ロール(転がる)などパートナーに中心を預け, 支えあう。普通, ダンスの身体が, 重力の中で中心軸を維持して自立しているのに比べ, 重力に従うコンタクトの身体は中心軸を維持しないという点で独特である。=依存, やさしさ, 弱さ, 病んだ身体, 衰弱, 死など「演じる」ことをしない, 同時多発(グループの場合), ジェンダーフリーなどの点でカニングハムの身体性と共通点があるが, カニングハムの身体が自立的で中心軸を維持するのと異なる。

パクストンは身体の物理的反應, 力学的な原理に基づく純粋な動きに注目して動きを追求, ダンスの抽象化を目指した。そこでは身体は意味から解放されているが, 舞踊の抽象化においては身体を持つ象徴性の問題が残る, 振付や演出がある場合コンタクト・インプロヴィゼーションの身体性は多義的なイメージの喚起力がある(上記)。基本はデュエットの技法であるため人間の関係性を浮き上がらせる傾向がある。技術の修得度に合わせ応用できるという側面もあり, 振付家たちに創作上, とりわけパートナリングにおいて新鮮な語彙を与えた。境界や差異を越えるコンタクト・インプロヴィゼーションの身体性は, 振付と溶け合い, 時に振付を超えて, 構造的に仕込まれた隠喩として自由, 平等, 信頼などという社会的な価値観を動きそのものの中に浮上させることが可能だ。非階層的・平等で, 自発性があり, 交感する身体は, 今日のダンスの視点に改めて多くの示唆を与えるものである。